

遺伝子診療科がおすすめする初期臨床研修プラン

<診療科説明>

臨床遺伝専門医は、すべての診療科からのコンサルテーションに応じ、適切な遺伝医療を実行するとともに、各医療機関において発生することが予想される遺伝・遺伝子に関係した問題の解決を担う医師です。ゲノム情報を活用した医療は、特定の診療科のみならず一般診療へ拡大しつつあります。すべての基本的領域の診療科を目指す医師は、臨床遺伝学、遺伝カウンセリング、遺伝学的検査の基本的知識、経験が必要な時代となっています。

遺伝子診療科を志望する研修医には、初期臨床研修中に内科、外科、小児科、産婦人科、その他すべての診療科において医師としての礎となる分野を学んでいただきます。そのうえで、自由選択期間に遺伝子診療科を選択していただき、遺伝カウンセリング、遺伝学的検査などの臨床遺伝学を学び、実臨床で経験してもらいます。またゲノム情報の Web 検索ツールを活用し、バリエーションデータを正しく評価・解釈ができるように実践してもらいます。

臨床遺伝専門医取得への道筋としては、

1. 基本領域各科専門医の取得：基本領域の各科専門医を取得した後、臨床遺伝専門医の研修を開始します。
2. 臨床遺伝専門医の取得：3年以上の研修を経て、受験資格を取得できます。認定試験（筆記試験および面接試験）に合格することが必要です。

臨床遺伝専門医を主科とする部門としては、遺伝医療部門（大学病院遺伝子診療部、小児病院遺伝科など）があります。また、基本領域の専門医としての勤務を主にし、サブスペシャリティーとして遺伝医療を実践している先生も多くいます。

1. 研修病院の選択

いずれの協力型研修病院、研修協力施設で研修を行っていただいてもかまいません。

2. 臨床遺伝専門医になるために研修が望ましい診療科

臨床遺伝専門医になるために、研修が望ましい診療科として腫瘍領域、小児領域、周産期領域、神経筋領域、循環器領域などを扱う診療科での研修をお勧めします。具体的には、がん診療、循環器領域、神経筋疾患を扱う内科、外科、および小児科、産婦人科などの診療科での研修を各 4~8 週間程度の期間をお勧めします。そのうえで自由選択期間に遺伝子診療科を選択していただき、遺伝カウンセリング、遺伝学的検査などの臨床遺伝学を学び、実臨床で経験してもらいます。

3. コース選択

Aコース：大学病院から研修をはじめめるコース

1年次 大学病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 内科				必修 外科		必修 小児科		必修 産婦人科		必修 救急 ICU	選択 遺伝子診療科	
2年次 協力型研修病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 地域	選択 小児科	選択 産婦人科	必修 精神科	必修 救急・ICU			必修 内科			選択 外科		

Bコース：市中病院から研修をはじめめるコース

1年次 協力型研修病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 内科						必修 外科		必修 小児科	必修 産婦人科	必修 精神科	必修 救急・ICU	
2年次 大学病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 救急 ICU	必修 地域	選択 小児科		選択 産婦人科		選択 内科系・外科系			選択 内科系・外科系 遺伝子診療科		選択 遺伝子診療科	

Cコース：大学病院を中心に研修するコース

1年次 大学病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 内科				必修 外科		必修 小児科		必修 産婦人科		選択 内科系・外科系 遺伝子診療科		選択 遺伝子診療科
2年次 大学病院												
4週	8週	12週	16週	20週	24週	28週	32週	36週	40週	44週	48週	52週
必修 救急 ICU		必修 内科			必修 精神科	必修 地域	選択 内科系・外科系			選択 遺伝子診療科		